



いつのまにか令和3年も過ぎ去ろうとしています。今年もコロナウイルスに振り回された1年となりました。「コロナ差別」という言葉も定着し、オミクロン株も気になるころですが、改めて「悪いのはウイルスであって個人ではない」ということを再確認したいものです。これ以上、不安を大きくし誰かを傷つけるのではなく、お互い支え合えるような社会になってほしいですね。立ち向かうべき相手はウイルスであって、人ではないのですから。

「ジェンダー平等」を実現しよう!

固定的な性別意識とは…

「男だからこうあるべき」「女だからこう」という考えのこと。



- 男が泣くな!
- 女のくせに、そんな言葉使いな
- 男の子は車の絵・緑や青色の服、女の子は赤やピンクで、レースがついたかわいい服というイメージ

性別役割分担意識とは…

その人がどんな人であるかに関わらず「性別を理由に「これをするべきだ」という考えのこと。

- 男は仕事、女は家事
- 政治家はやはり男でないと
- 保育士や看護師は女性の方が向いている



今まで生きてきた中で、必ず耳にしたり、言ったりしたことがあると思います。この2つの意識が、様々な男女差別につながっているのです。

SDGs「持続可能な開発目標」の5番目に、「ジェンダー平等を実現しよう」があります。主に女性が性別によって受ける社会的圧力を根絶し、性別によらない平等な社会を目指すという目標です。社会的に作られたイメージや役割をなくしていくことがジェンダー平等につながります。私たちにできる第1歩として、まずは2つの意識を振り返ってみませんか。

12月19日 中高生 人権交流集会に参加しました

今年の南部ブロックのテーマは「女性と人権」。講演やジェンダー平等について話し合ってきた事をまとめて集会で発表しました。生徒部会は7月以降、オンラインやみなど高等学園にて数回行われ、本校からも中学部2名、高等部2名が参加していました。他にも小松島高、富岡東高、海部高、那賀高、みなど高等学園、阿南中学校などの生徒たちが集いました。タブレットの使い方やオンラインでの話し方から始まり、初めて会う人に自己紹介をしたり、同世代の友達の意見を聴いたり、考えたことを発言したりして、とてもよい経験になりました。

本校生徒たちの考えた『私のできる第1歩』を紹介します。

- 「誰がどんな仕事をして、変に注目しないようになってほしい」
- 「いつもは自分がやらないことも、やってみる」
- 「ネットやテレビのニュースをいろいろ見て、もっともっと男女差別について考えていきたい!」



進路の取り組み紹介

卒業生を迎えて進路学習



9月13日に中学部3名・高等部4名を対象に、卒業生を迎えて、現在の仕事や生活等について話してもらいました。生徒の皆さんは社会人となった先輩の頼もしい姿を見ることができ、嬉しそうでした。また、それぞれに「初めてのお給料で買った物は?」「働いていて楽しみなことや大変なことは?」「ストレス解消法は?」等の質問をして、卒業後のイメージを高めることができました。



キャリア教育出前授業

12月7日には、和菓子職人の「菓舗ふくおか」代表福岡賢治様にお越しいただき、徳島の産業というテーマで和菓子作り体験を行いました。小学部2名、中学部4名が参加し、職人さんのあざやかな手さばきを見た後、季節感あふれる和菓子を作りました。おいしいお菓子もこのような職人さんのお仕事によって作られていることなどを感じることができました。



高等部 就業体験・施設見学

2学期には、高等部1~3年生の5名が次の事業所や施設で就業体験や施設見学を行いました。1日の見学から2~3日間の就業体験と期間はそれぞれでしたが、初めての場所に行ったり、いつもと違う人と関わったり、新たな活動をしたりすることで色々な学びがあり、卒業後の生活を保護者の方と共に考える機会となりました。



12月16日には、就業体験報告会を実施し、高等部生徒が写真なども活用しながら、様子や学んだこと、これから頑張りたいこと等を発表することができました。



就労継続支援B型事業所「ゆいたび」(吉野川市鴨島町)

就労継続支援A型「つむぎ」(阿南市才見町)

徳島赤十字ひのみね総合療育センター生活介護かがやき(小松島市中田町)

社会福祉法人カリヨン れもん・ケアセンターれもん(名西郡石井町)

障害者支援施設眉山園, 社会就労センターかもな, 眉山園デイセンター

(徳島市庄町)

